

平成 25 年 10 月 29 日

東海旅客鉄道株式会社

平成 26 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 主な Q & A

- Q. 本年度上期は観光需要が好調だが、来年度は反動減が見込まれるか。
- A. 上期の実績を見る限り、ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移していると思います。観光に関しては、伊勢神宮の遷宮、東京ディズニーランド開園 30 周年という特殊な要因があると見ています。ただ、東海道新幹線のお客様の多くはビジネス利用ですので、今後については、日本全体の経済の動きに依存する要素の方が大きいと考えています。
- Q. 東海道新幹線の大規模改修工事について、上期の進捗は設計等が中心だったとのことだが、今後の工事計画や工事費用全体に変更が生じる可能性はあるか。
- A. 本年度からスタートした大規模改修工事については、上期は元々詳細設計や安全を含めた作業体制の整備を行っており、工事实績は些少です。下期以降は本格的な工事施工を行うこととしていますが、10 年にわたる息の長い工事ですので、多少金額やスケジュールの調整はあるでしょうが、効率的な作業体制を整えて、これからもコストダウンなどを検討しながら工事を進めてまいります。
- Q. 新大阪駅の引上線の改良工事が本年度中に完成するが、これに伴い、来春のダイヤ改正で「のぞみ」を増発するのか。
- A. 引上線改良工事完成の直接的な効果は、列車の折り返し設備の強化によって輸送の弾力性が高まることであり、災害時等の異常時にも柔軟な形でダイヤの乱れを回復できるようになります。これに加え、増収に向けてこれらの設備を有効活用していくことも検討していますが、「のぞみ」の増発等については、今後のご利用状況などを踏まえて決定してまいります。

Q. 中央新幹線の開業時期を東京オリンピック開催に合わせることは、技術的に無理なのか。

A. 品川、名古屋の大都市部の地下駅や南アルプストンネルのような長大山岳トンネル等の建設には物理的に10年以上の工期を要することになりますので、2020年の東京オリンピック開催に合わせて開業することは不可能です。

Q. インフレや建設コストの上昇等によって、中央新幹線（東京～名古屋間）の建設費が5.43兆円よりも高くなるリスクはあるのか。

A. 物価が上がるかどうかは分かりませんが、継続してコストダウンを進めるとともに、契約時点の情勢を踏まえ、適切に対応してまいります。

Q. 中央新幹線計画の今後のスケジュールについて、工事实施計画の申請はいつ頃か。

A. 現在、環境アセスメントの手続きを法令に則り丁寧に進めるとともに、工事实施計画の申請に向け、様々な準備を行っています。行政側との手続きもあるので明確な時期を申し上げることはできませんが、来年度のできるだけ早い時期、できれば夏頃を目途に評価書を公告し、速やかに工事实施計画を申請したいと考えています。